

豚舎におけるネズミ対策

～三つの防除策で安全な豚舎管理を

畜産では害獣であるネズミにとって豚舎は格好の棲家だ。今回はすぐにできる対策ポイントを交えてネズミ対策を考えてみたい。

●まずはネズミに気づくこと

ネズミ対策が必要かどうかは、自分の農場にネズミがいるかを知ることから始まる。豚舎内をチェックすると、ネズミの形跡「ラットサイン」を見つけることがある。断熱材を使った豚舎では、意外な場所にウレタンが散らかっていることで気づくこともある。それに気づくためには、豚舎を常にきれいにしておくことが大切だ。

次に必要なのは、どんなネズミがどの程度いるのか確認することである。豚舎で見かける代表的なネズミは3種類（ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ）。いずれも繁殖能力が高く、1組の夫婦から1年間で約1万匹のネズミが生まれる。これらネズミの特徴は、平成22年発行の「ちくさんクラブ21」66号と69号に詳しく掲載されているのでぜひ確認していただきたい。

●豚舎におけるネズミ被害

豚舎には、ふたのない給餌器やウォーターカップなどネズミにとって好都合の資材が使われている。ネズミは作業者が帰った後に餌を食べに来るとは、給餌器内や豚房にふんをして、それを豚が摂取してしまう可能性もある。ネズミはサルモネラ菌やブドウ球菌など人畜に有害な病原菌を媒介するため、豚がそれらの疾病の被害にあうこともあり得る（衛生的被害）。また、ネズミは配線や断熱材をかじるため、停電や空調の停止、漏水、断熱効果の低減など事故や損失を発生させる。本来豚が食べる飼料を盗み食いするので、飼料代のムダが発生し、飼料要求率が悪化する（経済的被害）。さらに、ネズミの足音などによる不快感や悪臭など精神的被害もある。

●すぐにやりたいネズミ対策

ネズミ防除には大きく分けて「環境的防除」、「化学的防除」、「物理的防除」の三つがある。環境的防除とはネズミが生息しにくい環境を維持する方法で、飼料の管理、畜ふんの処理、営巣場所の撤去、畜舎への侵入経路の遮断などを行う。養豚では人工乳など紙袋の飼料を多く使用するため、写真①のような管理状態になるとそこはネズミにとって隠れ家となるので、写真②のように清掃、

整理したい。特にパレットに積んだ飼料を壁から離すことが大切である。また、写真③のようにドアの下にすきまがあると、ネズミが簡単に外から侵入してしまうのでゴム板でふさぐなどする。これはネズミ対策であるとともに、冬場のすきま風侵入防止にもなる。

化学的防除とは、殺鼠剤による駆除や、忌避剤により豚舎に近づけない方法である。殺鼠剤はネズミが好む食べ物と混ぜて使用するとより効果的だ。写真④～⑥は飼料、天かす、植物種を使った事例である。また、殺鼠剤は家畜にもネズミ同様の効果があるため、豚が接触できない場所に置くなど、取り扱いには注意を払う。

物理的防除とは、わなや機器を用いてネズミを捕獲したり、忌避させたりする方法である。パチンコやカゴによる生け捕りや粘着マットによる捕獲（写真⑦）、超音波忌避器による進入防止などがある。

ネズミ対策の一連の流れを図に示した。防除の後の「日常点検」も忘れず行ってほしい。

ネズミ防除の流れ

現状の把握	<ul style="list-style-type: none"> ネズミの種類 生息箇所(畜舎内、外、天井裏等) 活動状況(ラットサイン等) 被害状況(畜舎、飼料等)
殺鼠剤の選定	<ul style="list-style-type: none"> 無毒餌を用いた嗜好性確認 殺鼠剤容器の嗜好性確認
防除	<ul style="list-style-type: none"> 環境的防除 化学的防除 物理的防除
清掃	<ul style="list-style-type: none"> ネズミの死骸、ふん等の除去
日常点検	<ul style="list-style-type: none"> 防除データの記録と管理



①散らかった使用済み紙袋はネズミの格好の隠れ場所 ②きちんと整理し、パレットを壁から離す ③ドア下のちよつとしたすきまでもネズミは通れる ④飼料を用いた毒餌 ⑤天かすを用いた毒餌 ⑥植物種を用いた毒餌 ⑦粘着シートによる駆除